

## ●青山学院大学 国際政治経済学研究科

## 「グローバル・エキスパート養成プログラム」の事例 &lt;人社系&gt;

**具体的に何を実施し、何が困難であったのか**

専攻横断型のプログラムは、各専攻に付加する形で設定されるので、入学時は従来の専攻に所属し、かつ選考も当該部門の教員が判断するので、初年次プログラム固有の判断基準を設定することが困難であった。また入学後は、いわば現住所がプログラム所属になるので、指導体制の責任部署、修士論文の指導体制と最終成績評価時における教員構成と評価基準についての整備に時間がかかった。

**苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか**

入学選考時には、既存専攻のポリシーと当プログラムと選考基準のすり合わせに苦勞した。また、当プログラムを担当するプロジェクト教員を採用したが、身分的には非常勤扱いであったので、入試時における関わりの範囲に制約を受けざるを得なかった。また論文指導教員となる場合にも、主査1、副査2からなる集団指導体制をとる場合に、主査になることができず、必ずしも十分な指導を行う体制にはなっていなかった。制度改正するには、すでにプログラムが始まっていたので後手に回ってしまった。支援期間がさらに1、2年あれば対応できたが、期限切れであった。

**どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか**

プログラム内容の充実に注力していたので、選考時と終了時の基準と人事体制が不備であった。二年目からは、選考時の態勢の整備はなされ適切な選考基準の下で実行できたが、実践に基づいた論文指導は実務家と専任教員との連携をさらに工夫していく必要性を学んだ。院生からも、両者の指導の視点の違いに戸惑うケースが見てとれた。また、所属問題として、既存の専攻入試ではなくプログラム選考入試の確立が要望され、入学後も名実ともに専攻にすることへの要望が出てきた。

## ●青山学院大学 国際政治経済学研究科

## 「グローバル・エキスパート養成プログラム」の事例 &lt;人社系&gt;

**具体的に何を実施し、何が困難であったのか**

海外のフィールドワークとして、途上国の大学や国際NGOとの連携で社会活動を行い、実践的な経験を積ませた。初年度は難民キャンプの視察とそこでの子供の生活支援活動、次年度には環境問題を中心に、世界遺産や都市部のクリーンアップキャンペーンを行った。これら活動を開発するために海外の当該機関との交渉に時間と労力の多くを費やすこととなった。

**苦勞したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか**

特に普段の講義と研修の交渉を同時に行うには、複数のスタッフが必要であり、人材が不足している中で、実践に精通してなおかつ大学院教育ができる資質を持った適任者を準備することの困難さを感じた。このことで、限られた回数と規模になってしまった。

**どのように対応し、そのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか**

プロジェクトを担当する教員を複数雇用し、役割分担をして、研修先の開発に努めた。当プログラムは全くの初めての試みであったので、規模の制約は仕方なく、中期的展望に立ち研修先を開発し、準備する必要性を感じた。なお参加した学生達からは、個人では決していけない場所と活動ができたことへの充実感と研究テーマの設定に極めて有用であるとの声が聞こえてきた。複数の者が、次年度も参加して経験を積んで行くことができた。